

亡きわが子の認定申請

へその緒のダイオキシン類数値を基に

五島の患者 岩村さん 50年思い悩み

五島市奈留町のカネミ油症患者、岩村定子さん(74)は16日、約50年前に生後4カ月で亡くなったわが子、満広ちゃん(右)のへその緒のダイオキシン類数値を基に、油症認定するよう代理人を通じて県に申し入れた。死者の認定申請は異例。岩村さんは「子どもを健康に産んであげられなかった原因についてずっと思い悩んできました。検討してもらった内容はそのまま満広の墓前に伝えます」としている。



ちゃんは唇が裂け肛門は閉じ、心臓にも異常を抱えており、50日間ほどの入院を余儀なくされた。「医師から説明を受けたとき、本当に自分のことだろうか」と思い、信じられなかった」と振り返る。満広と名付け、退院後、「周りの子どもと同じようにお祝いしたい」と奈留島の神社に親族とお宮参り。親子の思い出をつくった。同年12月、大切に

な幼い命の火は消えた。その後、2人の子どもに恵まれたが、満広ちゃんの死は油症が原因ではなかったかこれまで考え続けてきた。油症の原因物質ダイオキシン類は、母胎から胎盤や母乳を通じ子どもに移行するとの研究報告がある。2013年には全国油症治療研究班(事務局・九州大)に満広ちゃんのへその緒を預け、ダイオキシン類の濃度を調



2018年の本紙取材で油症の次世代被害について語る岩村さん
＝五島市奈留町(三代直矢撮影)



生後間もない満広ちゃんのお宮参りの写真。
岩村さん(右)と、満広ちゃんを抱く親族
＝1973年、五島市奈留町(岩村さん提供)

稲塚さんは「岩村さんからわが子の死についてじくじたる思いを聞いてきた。県や研究班にくみ取ってもらいたい」と話した。(角村亮一)